

第1回 西ノ島町総合振興計画策定審議会 議事録

1. 開催概要

日 時 令和6年5月7日(火) 14:00~17:00

会 場 西ノ島町役場 2階 議場

参加者

【委員】20名中18名の出席

【事務局】

所 属	職 名	氏 名	備考
西ノ島町	町 長	坂 栄 一秀	
西ノ島町 政策企画課	課 長	桶谷 昌史	
西ノ島町 政策企画課	係 長	木村 龍士	
西ノ島町 政策企画課	主 任	阿川 満美	

【調査委託会社】

所 属	氏 名
(株)エブリプラン	鶴見、川谷

2. 議事次第

- 1) 開会
- 2) 委嘱状交付
- 3) 町長あいさつ
- 4) 委員紹介
- 5) 会長・副会長選出
- 6) 諮問
- 7) 議題
 - (1) 西ノ島町総合振興計画・総合戦略の策定について
 - ① 計画の位置づけ
 - ② 町民アンケート調査結果
 - ③ 庁内ヒアリング調査結果
 - ④ 人口推計
 - ⑤ 策定体制・スケジュール
 - (2) 西ノ島町のこれからのまちづくりに関する意見交換
- 8) 閉会

3. 配布資料

次第

委員名簿

計画の位置づけ【資料 1】

町民アンケート調査結果【資料 2-1】

町民アンケート調査結果（FA 抜粋）【資料 2-1 別添】

小中学生アンケート調査結果【資料 2-2】

小中学生アンケート調査結果（FA 抜粋）【資料 2-2 別添】

庁内ヒアリング調査結果【資料 3】

人口推計【資料 4】

策定スケジュール【資料 5】

西ノ島町総合振興計画策定審議会設置条例【資料 6】

4. 議事録

1) 開会

事務局より、出席者数が定足数を満たしていることを報告した。あわせて、会議内容をホームページで公表すること、そのための会議中の写真撮影・録音を行うことについて説明した。

2) 委嘱状交付

坂栄町長から各委員に対し、委嘱状を交付した。

3) 町長あいさつ

坂栄町長より挨拶を行った。内容は以下の通り。

発言者	要旨
坂栄町長	第 6 次西ノ島町総合振興計画はこれから 10 年間のまちづくりに対しての最上位計画なので、皆さんから多くの意見を集め反映していきたい。近年、少子高齢化、人口減少、都市部人口集中の潮流の中での地方のあり方が問われている。 将来を予測することは難しいが、10 年後に向けて短期・長期で向き合うべきことを含めた総合振興計画をつくっていきたい。 皆さんから専門的な分野の意見をいただくことはもちろん、10 年後どのような島になってほしいか、一町民の視点からも意見がほしい。人口問題が差し迫っている地方だからこそ、都会よりも先に対応を模索し対策しなければならない。多様な取組を皆さんと共有していきたい。

	<p>今と 10 年先はつながっているのに、諦める必要はないが楽観していても地域の課題は解決しない。こらえるところはこらえて、チャレンジできるところはチャレンジする、そのようなまちにしたいと考えている。西ノ島の子どもたちは、地域の将来を託す次の世代だと感じる。その子どもたちのためにも議論を深めてほしい。</p> <p>町民が自分ごととして西ノ島町の未来を考えることができるような計画をめざし、10 年後も西ノ島に住むことを選んで良かったと言われるようなまちづくりをしないといけない。</p> <p>タイトなスケジュールではあるが、色々な情報を共有しながら、私たちにとって住みやすいまちになるような計画策定の審議をしていただきたい。</p>
--	--

4) 委員紹介

各委員より、自己紹介を行った。

5) 会長・副会長選出

事務局より、以下の 2 名を委員長・副委員長として選出することについて提案があり、委員より承認された。

発言者	要旨
会長	当審議会が西ノ島町のこの先 10 年間のまちづくりの方向性を決める重要なものと認識している。限られた時間ではあるが、委員の皆さんから忌憚ない意見をいただき、西ノ島町民全てが未来に希望の持てる計画にしていきたいと思うので、協力のほどお願いしたい。

6) 諮問

坂栄町長から竹谷会長に対し、諮問を行った。

7) 議題

事務局より、議題 (1) について、配布資料 1~5 に沿って説明を行い、意見交換を行った。質疑・意見は以下の通り。

発言者	要旨
委員	アンケートの結果によって全体計画が左右されるのか。
事務局	アンケートの意見全てを反映はできないが参考にする。アンケート、検討委員会、審議会が出た意見を踏まえて今後の計画の方針を検討して

	いく。
委員	第6次総合振興計画を実施するとなると、建設的な意見が必要となる。アンケートの結果をみると愚痴のように感じる。愚痴と課題では判断が違う。要望が多く、自分が参加するという意識が含まれていない意見のように感じた。
事務局	要望を書いている人もいるかもしれない。作った計画をいかに町民の皆さんが自分ごととして取り組んでいくかが大事になってくる。計画を作るプロセス、作った後の周知・広報、作った後の活動を考える必要がある。
委員	自分ごととして考えてほしいと町長も強調していたが、自分は何ができるかといった内容のアンケートなら結果は違ったかもしれない。自分たちで何とかしなければいけないという意識を持つか持たないかで大きく違う。
事務局	要望の意見が多いかと思ったが、「住民みんなでまちづくりに取り組むまち」という意見が複数あり嬉しく感じた。 アンケートの意見を見無視はしないが、書かれていること全てを反映することは難しい。住民の意向を踏まえつつ、どう実行計画に落とし込むかを検討委員会や審議会で検討する。
委員	アンケートの回収率40%は高いのか。
事務局	弊社実績を踏まえると、この種のアンケート調査では30%台が平均的であり、40%は高い。
委員	「自身のことについて」の項目が重要。職業や家族構成によって意見は変わってくるが、その項目がないため信憑性が低いのではないかと。個人と意見の繋がりが見えにくいアンケートの設計はどうなのか。
事務局	回収率を高めることも考え、答える項目を多くし過ぎないようにした。西ノ島町の場合、職業を細かく聞いていくと分母が小さくなるので、有意性を話し合った結果、職業はそこまで重要な要素でないのではということになり今回設問に加えなかった。
委員	子育てについての設問が多いが、ターゲットがどこか分からないので手の打ちようがない。寄せ集めや感覚のアンケート、感想文的なアンケートはアンケートではないというのが一般の常識なので、的を得たものが必要ではないか。
事務局	なるべく多くの住民の意見を聞きたいというのが前提にあった。小さい町において、回答者が特定されるような情報を問うアンケートは嫌悪されるため、職業や家族構成などの質問項目を減らした。難しい事を聞かれても分からないという回答も予想されたため、シンプルなもの

	にした。感覚的な回答が多いという意見もわかるが、この結果で傾向はある程度わかると思う。
事務局	役場の職員さんが直接住民・団体の声を聞いているという話も伺っている。アンケートだけでなく、そういった情報も踏まえて計画に落とし込んでいきたい。
委員	「幸せ実感」の年代別クロスはどうなっているか。この結果は重要になってくると感じる。集計結果の詳細を知りたい。
事務局	年代別に集計しているので、提示することは可能である。
委員	年代別クロスの結果で何か面白い特徴は出てきたか。
事務局	特に気になるところはなかった。
委員	「幸せ実感」の【10年後】について、「わからない」の回答者が多すぎるように感じる。「幸せ」の%は現在から減ってはいるが、実際はそんなに変わっていないのではないか。
事務局	まじめに考えて「わからない」を選択した方、自分に関係がない・興味がないので「わからない」を選択される方もいるかもしれない。この「幸せ実感」の項目では、「わからない」を選択した方が3割いたというアンケート結果をそのまま提示している。
委員	幸せ実感の指数は今後大事になってくると思う。年代別クロス集計についてはまたお示しいただきたい。
委員	町民にはアンケート結果を公開するのか。
事務局	2, 3月頃、町が持つ媒体において調査報告を実施した。
委員	今日のためにたくさん想いや意見を持って参加したが、時間が押ししており短時間では意見を交換できない。時間設定をしっかりとしてほしい。
事務局	時間配分について注意が足りていなかった。次回以降、事務局で時間管理を徹底したい。

事務局より、議題（２）について説明を行い、グループに分かれて議論をした。グループワークの後、全体共有を行った。各グループで出された意見については、以下の通り。

資源を活かして働く

共感・賛同	意見・提案
<ul style="list-style-type: none"> ・資源を生すしかない環境 ・今ある人・もの・自然を最良な形で活用できている。 ・ここで暮らすしかない。どうするもこうするもなし！ ・テキサスゲート（他の島にはない、あまり見かけない） ・土地を持っている人と土地を使いたい人をつなぐ ・隠岐にしかない資源 <u>西ノ島ならではの</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・島留學生が現地に出て起業できるように支援する ・半農半Xのようなとりくみはできている？ →兼業の推進をもっと積極的に行う ・観光資源の活用が弱いのではないか（整備含め） ・ふるさと納税で新たな資源を（財源、人材） ・資源とは何かをもう一度考えなおすべき ・隠岐でなくてはならないをつくらないと ・子ども達の意見をどう反映させていくか？ （次代を担う人として） ・農業、漁業だけで持続（競争）可能か？ 若者、転職できる島（この職だとこれしかない） ・Iターン者にとってハードル高い。<u>窓口が必要</u> ・資源をどうとらえるか。 何を資源と考えるか？ →人を資源ととらえてはどうか？ 光電話も資源（在宅ワーク） 神社、お寺、祭、かぐら、神話

助け合い健やかに暮らす

共感・賛同	提案
<ul style="list-style-type: none"> ・ニシノシマビトの心は今も昔も変わらない（あなたも私もOK） ・してほしい事を表わす機会を作る、出来る事を表わす機会を作る ・近くに助けてくれる人 ちょっとした悩みが解決 ・助け合いしかない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとした助けあい・お願いできる関係（買い物とか？→買い物代行） となりの人 ☆サービスはサービスとしてあればいい。 サービスまでのことで （ネットで調べても分かんない） 一緒にいる人と話している内に、悩みも相

<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートにあるとおり実感できている町民が多く思う ・お年寄り子どもとふれ合うことで元気になる ・子育て支援は厚い！ ・近所とのつながりはそのまま続ければ年代関係なく、つながり続けられる。 ・助け合の関係は密な関係を維持する事 ・「密」な関係。良いものもあれば悪いものもある。※西ノ島だけではないけど… 	<ul style="list-style-type: none"> ・談・解決できる（Iターン者で不安をかかえてる人） ・西ノ島町以外とのつながり外から見て分かることもある ・知夫と海士の対さくを知る ・総合公園・キャンプ場 町民利用促進 ・子どもがバス通学になってからお年寄りが子どもとふれ合う機会が減った ・昔は組ごととか小さい単位でも集まりがあったのに今はなくなった ・地元の子たちが会えるような機会を作る（同窓会？） ・「助け合い」という言葉があいまいで1人1人の力が活かされる体制ができていない
---	---

自然とともに暮らす

共感・賛同	提案
<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーの自立化をさらに進める（できなかった計画は止める） ・自然とともに暮すしかない ・ジオパークを生かした取組 ・ジオパーク→住民の意識 ・ジオパークは残していきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然は十分にあるが「管理されている」というと十分ではないかも

Keep3000！

方向性	意見
人口増／維持	<ul style="list-style-type: none"> ・IU ターン者数の増加 ・現状維持は退化の始まり 維持するには努力が必要！ ・I ターン者にとって家族や魅力的な仕事、評価をしてもらえる環境があれば残りたいと思う人も増えるのではないかな ・フリーな人が（結婚して・親の介護ではなく西ノ島にいる人）西ノ島に定住していくことが大切なのでは！ ・生産年齢人口が西ノ島町は少なく、10年後が予想されません。生産年齢人口を増やす方法として、当面は島留学生を100人程度増やす。 ・企業版のふるさと納税にとりくみ、企業からの人材派遣を誘う
人口減	<ul style="list-style-type: none"> ・「Keep3000！」のように「維持」するような計画は変化が出るので、人

	<p>口減少を見据えて、コンパクト→変化に視点を！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少が止まる気配はないです ・Keep3000 目標数はこのままで良いのか ・人口減を見据えて計画 あらがわない ・3000 人必要？1800 人でイメージ ・人口維持より減っても暮らせる体制 ・人手・人材不足を補う方法として、特に介護・福祉の分野で必要と思われるのは社会福祉法人の合併が重要課題と思われます ・病院が人手不足で体勢を縮小せざるを得ない
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・Keep3000 は結果である ・数字にこだわることに意味があるのか。人口構成が鍵となる（出身・年齢…） ・町民に当事者意識をどうもってもらえるか？誰かが何とかしてくれない。自分たちで汗をかいて島を住みやすくする意識 ・人口の目標は決めなくても良いのではないか。今いる人で何とかする。

その他

意見
<ul style="list-style-type: none"> ・今やってる施策に対して何ができて何ができてないのかわからない ・各目標に対しての数値目標はあるのか？

8) 閉会

以上